

令和7年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間支援ギャザリング資料（中間支援振り返りシート）

活動テーマ

『 21世紀型 “さとうみエコシステム” 』

活動団体の活動地域：広島県江田島市

活動団体名：一般社団法人フウド

中間支援主体名：一般社団法人HLL

中間支援主体としての獲得目標と達成状況

■ 中間支援主体としての獲得目標 【R7年度当初目標】

・前年度の取組 = 話し合う → やりたいことを棚卸 → 言語化・視覚化。比較的得意な支援分野だった
→今年度は、構想をカタチにしていくフェーズ。しかし、事業化は苦手な支援分野。

① 活動団体の力を引き出す関わり

：得意な伴走支援を軸にしながら、俯瞰的な視点よりも団体と同じ視点で、事業を考え動いていく
(目となり、手となり、足となり、頭脳となって、一緒に考えながら、動く)

② やってみる

：PBL [ProjectBasedLearning] 話し合い、仮説をつくり動きながら、気づき、学び、整えていく

③ 積極的に学ぶ

■ 中間支援主体としての獲得目標に対する振り返り (目標達成状況)

・ 目標の達成度

① 活動団体の力を引き出す関わり → 100%

② やってみる → 100%

③ 積極的に学ぶ → 80%

・ 1年間の振り返り

学ぶことをひとつのテーマにして臨んだ1年。

様々な事例を視察し、研修や本などを通じて学ぶという種類の学びはそれほど多くなかった。一方で、ファンド機能実現に向けた模索など、銀行や行政などのステークホルダーと交渉する中で、各々の思惑や利害関係を調整し動かしていくための術（選択肢）や構想を現実に落とし込んでいくための戦略や準備が足りないなど、経験としての学びを多く得た。

中間支援機能ごとの振り返り

チェンジエージェント機能		R7獲得目標（R7年度当初設定） 高めたい機能（◎/○）とその理由		現状の自己評価（R7年度末時点） 自己評価（◎/○/▲）とその理由	
変革促進	物事を整理する	◎	やりたいことを整理し、事業としてまとめる段階のため	○	発散傾向にある中で、優先順位をつけることはできなかった。事業というほどの解像度には至っていない
	意味づける				
	癒しとなる				
	見通しをつける	◎	本事業3年目に向けた準備期間として位置づけ	▲	3年目の事業のカタチを能動的につくっていったというより、結果的にカタチが見えた感触
プロセス支援	話を聞く				
	場を開く				
	喝を入れる				
	現在地を確認する				
資源連結	新しい人を入れる			◎	新たな関係人口コミュニティの形成
	事例を紹介する				
	引き出す				
	拡散する	◎	リソース不足を解消しインパクトを出すためにも、巻き込みを広げていく必要があるため	◎	企業や行政、NPOとの連携が具体的なカタチとなって動き出した
問題解決提示	文字や図に落とす				
	問いを立てる				
	会議を進行する			◎	ステークホルダーMTGを進行することで、活動団体が会議で話し合うことに集中できた
	落としどころを探る	◎		○	
その他	※必要に応じて追加				

今後の中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献 【R7年度当初目標】

- ・活動主体への伴走支援をベースにしたオーダーメイドの地域づくりを推進する団体となる。
特に本事業を通じて生まれてきた「風海土（フード）づくり」をコンセプトにした地域づくりを進めていきたい。
- ・本事業を通じて得た経験や手法を言語化したり、体験を共有化しながら、中間支援に必要なマインド・スキルや、進め方や有効なプロセス・ツールの考え方・作り方を整理し、そのノウハウを他の人たちに展開していく。
- ・得意／不得意に関わらず挑み、なんとかしていく力や資源を持ち活用するコーディネート力を持つ。また、活動主体への支援者という受動的な立場だけではなく、地域の持つリソースを集めプロデュースするような、積極的な役割も果たせるような視点や経験を提供していく。

■ 地域づくりに貢献していくために、今後、どうなりたいか

目指す姿	目標達成に向けた、次年度の行動	チェンジエージェン ト機能での分類
<ul style="list-style-type: none">・「中間支援者としての関わり」 主体や組織のような単位だと維持コストが高く、収入金額による案件選択の比重が大きくなる。個人単位で動くことで、コストを抑えながら、ニーズの高い地域での中間支援のニーズに応えていく	<ul style="list-style-type: none">・多様なステークホルダーを連結させた仕組みづくり（地域における資金循環・ファンド機能づくり）	資源連結
<ul style="list-style-type: none">・「中間支援機能を持つ人材の育成」 地域づくりへの携わり方としての中間支援を確立できるように、実践経験やそこでのノウハウ・考え方をシェアしていく	<ul style="list-style-type: none">・自身の実践知を言語化してまとめていく	物事を整理する

■ 地域づくりに貢献していくために、外部地域や関係者と連携や協力したいこと

- ・関係者と連携・協力→地域循環共生圏づくりに資する活動に対する資金循環の仕組みをつくっていきたい。江田島市域・広島県域などの地域型と、生物多様性や海ゴミ問題などのテーマ型などを、企業・行政・NPO支援団体・地域活動団体などを連結させる形でつくりたい。
- ・外部地域との連携→人材育成。中間支援主体の担い手に必要な機能は明らかになっているが、その育成については、OJTアプローチが必要となる。そうしたある種のメンタリングがあることで育成できる中間支援を担う人材もあると考える。